

日本年金機構理事長賞 福岡県 佐藤 楓伽 様 (高校生)

私は、年金についてのエッセイを書くにあたって、まず年金について知るために周りの人に尋ねたり、ネットで調べたりした。すると、今年の3月に亡くなった祖母のことが頭に浮かんできた。祖母は若い頃、交通事故に遭い、私が物心ついたときからずっと車いすに乗っていた。そして、施設に入院しており、私が小さいときは、よくお見舞いに行った。祖母が事故に遭ったときのことを母に聞くと、当時は一家全員とても焦って大変だったそうで、入院やリハビリなどのお金がたくさん必要だったそうだ。でも障害年金があったおかげで、入院費などを払っていくことができたと言っていた。

私は、年金について調べる前、年金は漠然と高齢者になったらもらえるものだと思っていた。しかし、調べていくうちに、年金は、色んな困っている人を助けられる優しい制度だなと思った。3月に亡くなった母方の祖母だけでなく、父方の祖父母も年金に助けられているはずだ。

私は、父にも年金についての意見を聞いてみた。父は、「年金は必要だけど、これからの時代は少子高齢化とかで、もらえる額は減っていくだろうね。そのせいで、年金を払う人とかも減っていくかもしれないし」と言っていた。私は、確かにそうだなと思った。そして働いて年金を払っている父や世の中の大人を純粹にすごいなと思った。年金を払ってくれている人のおかげで、私の祖父母や高齢者の方々、困っている人たちが生活することができている。今の現役世代は、年金をもらえないかもしれないとも言われていて、父の言う通り払いたくない人もいるのかもしれないと思う。私は、まだ子供で偉そうなことを言うべきではないけれど、働き始めたら、今の大人たちのようにしっかり払っていきたいと思う。困っている人を助ける、そして自分も誰かに助けられる。そのような支え合いは、とても大切だと思うからだ。

このような仕組みは、年金だけではなく、私たちのような子供が過ごしていく中でもあると思う。協力する、助け合う、小学校の頃から先生に教わったことだ。困っている人に手を差し伸べることができなければ、自分がいざ困ったとき誰も助けてくれなくなると

思う。これからどのような世の中になるか分からないけど、私は、この支え合いの仕組みがずっと続いていくといいなと思う。私の祖母は、年金を払ってくれていた方々のおかげで生活できていたので、その方々に私たちの世代が返していかなければ申し訳ないし、支え合いの意識がなくなってしまうといけないと思うからだ。

私が年金を払えるようになるまで、まだ少し時間があるが、このエッセイに書いたことを忘れず、意識して過ごしたいと思う。そして、今の若い人々に、年金の仕組みの優しさについて知ってもらえるといいなと思う。